

顎顔面インプラント再建外科学特論

Advanced Course of Reconstructive Surgery using Implant Technology

キーワード

- ① 骨造成
- ② 人工材料
- ③ 上顎洞挙上
- ④ 口腔外からの骨移植
- ⑤ インプラント補綴

授業概要

本講義では口腔顎顔面領域の多発骨折症例、良性または悪性腫瘍による広範囲な顎骨欠損症例、骨萎縮症例等に対し、骨造成とインプラント補綴による咬合機能および顎顔面領域の審美・形態再建方法について修得し、顎顔面インプラント再建の診断・治療法を学ぶ。特に骨造成を成功させるための骨の科学を概説し、移植に使用される顎骨、腸骨、肩甲骨、鎖骨、肋骨、腓骨の特徴と採取骨の選択法、人工材料の特性について教授する。また、骨造成方法やインプラント埋入手技についても教授する。さらに、顔面のエピテーゼなどの審美・形態回復についても症例を供覧し、患者のQOLや精神心理的影響についても理解する。

授業科目の学修目標

口腔顎顔面領域の骨折、腫瘍、骨萎縮等に対し、骨造成とインプラント補綴で咬合機能の再建を行う診断・治療法を学ぶ。

授業計画

- ① 骨科学、解剖学概要 5コマ 岩渕博史
- ② 骨造成論 12コマ 岩渕博史
- ③ 人工材料論 5コマ 岩渕博史
- ④ インプラントの材料論 2コマ 岩渕博史
- ⑤ 口腔外からの骨移植論 4コマ 岩渕博史
- ⑥ インプラント補綴論 2コマ 岩渕博史

教科書および参考書

なし

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

インプラント治療、骨科学、頭頸部解剖学、人工材料、口腔外からの移植骨の特徴についての概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① インプラント再建に必要な骨科学や解剖について理解する。
- ② 様々な骨造成法の特徴と適応、その外科手技を理解する。
- ③ 様々な人工材料の特徴と適応、その応用方法を理解する。
- ④ 様々なインプラントの材料について理解する。
- ⑤ 様々な口腔外からの骨移植法の特徴と適応、その外科手技を理解する。
- ⑥ インプラント補綴の特徴と適応、その応用方法を理解する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・口頭試問で各講義の理解度を判定する。1%×30回=30%
- ・レポートは、骨科学・解剖学概要、骨造成論、人工材料論、インプラントの材料論、口腔外からの骨移植論、インプラント補綴論の6項目について課題を提出する。5%×6回=30%
- ・最終授業にて総合試験を行う。40%×1回=40%

理想的な達成レベルの目安

全ての評価の総合で80%以上の達成を求める。